

## 令和4年度 学校経営計画及び学校評価

## 1 めざす学校像

いかなる国際情勢の中でも生き抜く人材育成をめざす。

- 1 自分の意見を堂々と言える能力の育成
- 2 得意技を身に付けさせる
- 3 進路指導の強化

## 2 中期的目標

## 1 学力を向上させる

- (1) 学習到達度の目標を具体的に持たせる。
- (2) 学校と家庭で過ごす時間のバランスを考えさせ、放課後や家庭等での学習の質と量を向上させる。
- (3) 授業を少人数展開や習熟度別に適宜行うことにより、学習理解を深化させる。
- (4) 1・2年次の学習内容の定着を図り、3年次の大学入試に向けた学習を効果的に進めさせる。
- (5) 土曜日を学習活動のために有効活用させる。
- (6) ICTを利活用するとともに、主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を図り、教員の授業力を向上させる。  
※学校教育自己診断（授業外の学習機会）に対する生徒の肯定的回答を令和6年度まで毎年90%以上を維持する。(R1:89%, R2:90%, R3:91%)  
※12月の生徒による授業評価で、令和6年度まで毎年、3ポイント以上の教員を80%以上、全教員の授業アンケート総評の平均を3.2以上、それぞれ維持する。  
(R1:88%, R2:90%, R3:100%) (R1:3.30, R2:3.33, R3:3.41)

## 2 思考力、判断力及び表現力を育成し、多様性を受入れる態度を醸成する

- (1) 探究に関する授業「IM」やホームルーム等を通して、論理的及び批判的思考力や表現力を育成する。
- (2) 講演会や研修会等を通して、主体的に学び、意見を積極的に述べる態度を育成する。
- (3) 国際交流事業等を積極的に展開し、多様性を受け入れ、他国の人々と協働する態度を育成する。  
※授業「IM」に対する生徒による授業アンケート3.2ポイント以上を令和6年度まで毎年、維持する。(R1:3.38, R2:3.47, R3:3.47)  
※各種講演会・研修会の事後アンケートで肯定的意見80%以上を令和6年度まで毎年、維持する。(R1:93%, R2:未実施, R3:95%)

## 3 得意技を身に付けさせる

- (1) 英語4技能5領域をバランスよく指導するとともに、特に「話す」「書く」力を向上させる。
- (2) 英語以外の教科や課外活動等で知識や技能を向上させる。
- (3) 高大連携を推進し、より高度な学習及び研究への意欲を醸成する。

## 4 進路指導を強化する

- (1) 進路行事を積極的に展開し、自分の興味・関心等をもとに将来の目標を考えさせ、進路実現に対する動機付けを行う。
- (2) 学習到達度を定期的に測定しながら、自己実現に向けた具体的・計画的な進路指導を行う。
- (3) 入学時から大学入試等の情報や教育産業の進路情報を積極的に活用し、進路選択を支援する。  
※学校教育自己診断（きめ細かな進路指導）に対する生徒・保護者の肯定的回答を、令和6年度まで毎年80%以上を維持する。(R1:88%, R2:87%, R3:87%)  
※令和6年度にめざす大学合格者数（現役生9クラスの延数）

	京阪神大、早慶上理大等	他の国公立大	関関同立、GMARCH等	産近甲龍等	海外の大学
	10	90	200	300	5
R1	4	53	190	253	0
R2	7	52	165	312	0
R3	3	68	210	435	0

## 5 修学が困難な生徒を支援する

- (1) 支援チームを立ち上げ、個別のケースに対応した指導を行う。
- (2) スクールカウンセラーと連携を密にし、支援を必要とする生徒・保護者への教育相談を行う。  
※学校教育自己診断（生徒の相談に丁寧に応じている）に対する生徒・保護者の肯定的回答を令和6年度まで毎年80%以上を維持する。(R1:86%, R2:89%, R3:92%)

## 6 校務整理と人材育成を図り、教育効果の高い学校運営を行う

- (1) 人権教育推進の観点から、学校としての方針を定め、学年・分掌の長の責任と権限により、効果的かつ迅速に学校運営を行う。
- (2) 経験年数が少ない教員を積極的に登用し、人材の育成を図る。
- (3) 学校運営協議会の提言を踏まえ、学校運営の改善を進める。
- (4) 教員の時間外在校時間を削減する。

## 7 学校を広く発信する

- (1) 学校説明会及びパンフレット等の広報媒体を充実させる。
- (2) 本校の教育方針・教育活動について、あらゆる機会・方法を活用して積極的に発信する。

## 【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和4年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p><b>【学習指導等】</b></p> <p>・「家庭学習によく取り組んでいる(57%)」「得意技を身に付けることを意識している(68%)」という生徒に対する設問や「授業が分かりやすい(70%)」「家庭学習によく取り組んでいる(69%)」という保護者に対する設問の回答結果から、本校の学校経営計画上の課題、特に「生徒の学習時間の確保」と「授業改善」は未だ達成途上であると考えられる。</p> <p><b>【他の教育活動】</b></p> <p>・「本校に入学してよかった(90%)」「授業以外の学習機会がある(88%)」「教員は親身になって相談にのってくれる(90%)」「進路相談が十分行われている(89%)」という設問に対する生徒の満足度がそれぞれ高いことから、生徒の日々の充実感、教員との良好な関係などは今後とも維持していきたい。</p> <p><b>【学校運営】</b></p> <p>・1人1台端末を活用した授業を行っているという回答した教職員は34%にとどまった。活用している他の教員の授業見学や校務における利活用を推進し、校務運営の効率化をさらに図る必要がある。</p>	<p>第1回（6月11日）</p> <p>① スクール・ミッションの作成に当たり、グローバル科の位置付けを明確にすべき</p> <p>② 国際交流プログラムは、コロナの状況次第であるが、継続して取り組んでほしい</p> <p>第2回（8月26日）</p> <p>① スクールポリシーへと繋がる部分の（ウ）のSDGsについては必要かどうか</p> <p>② 模試の結果をどのように分析しているか</p> <p>③ 国際交流プログラムは、コロナ禍の中でよく実施できたのではないか</p> <p>④ 卒業生の活用を推進してほしい</p> <p>⑤ 教育課程の変更で教材開発の負担が大きいため、共有化して省力化を図ってはどうか</p> <p>第3回（1月27日）</p> <p>① 生徒の入学後の学力維持についてさらに取り組んでほしい</p> <p>② 全ての教科で生徒の読解力を高める取り組みをさらに推進すべき</p> <p>③ 教員間の同僚性を高め、教材や教え方を教員間で共有するなどしてはどうか</p> <p>④ 授業力をさらに向上させるなど、和泉高校の魅力を高めてほしい</p>

## 3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R3年度値]	自己評価
1 学力を向上させる	<p>(1) 学習目標・内容・学習方法の明確化</p> <p>(2) スケジュール管理等による1・2年生の授業外学習時間の向上</p> <p>(3) 進路・習熟度別に講座編成し、学習内容の理解を深める</p> <p>(4) 日々の学習内容の定着を積み重ねる</p> <p>(5) 土曜日を有効な学習の機会として活用する</p> <p>(6) ICTの利活用及び主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善を進める</p>	<p>(1) 年度当初に各教科の学習到達度を明確にし、家庭での学習時間のめやすを示す。特に、年度後半に落ち着いて学習できる環境を醸成する。</p> <p>(2) ①教科毎の1週間における授業外学習時間の目標を示す。 ②自己のスケジュールを管理させる。 ③補習、講習を効果的に実施する。</p> <p>(3) 1・2学年では、国語・数学・英語に重点を置いた教育課程を編成する。特に、2学年では、数学を進路別、英語を習熟度別に編成し、学習効果を高める。</p> <p>(4) 予習・復習、小テスト、宿題など、授業を補完する課題等を有機的に連動させる。タブレット等を活用するなどし、家庭での学習課題の提示方法や内容等を工夫する。</p> <p>(5) ①1・2年グローバル科には土曜授業を隔週で実施する。 ②1・2年普通科にはグローバル科土曜授業の時間帯に自宅等での学習を進めさせる。 ③3年生には希望者講習を積極的に実施する。</p> <p>(6) ①生徒に配付した1人1台端末等のICTを活用した授業を展開する。 ②教員の相互授業見学や観点別評価に関する研修会等を通して、主体的・対話的で深い学びを実現できるよう、教科指導力を向上させる。</p>	<p>(1) (3) (4) (5) ・教育産業模試(11月実施)偏差値平均 グローバル科 1年：国 54 以上/数 52 以上/英 56 以上 2年：国 54 以上/数 52 以上/英 56 以上 普通科 1年：国 53 以上/数 51 以上/英 52 以上 2年：国 53 以上/数 51 以上/英 52 以上</p> <p>グローバル科 1年：国 53.2/数 50.2/英 52.2 2年：国 51.9/数 49.8/英 50.5 普通科 1年：国 49.1/数 48.4/英 46.1 2年：国 46.7/数 45.3/英 43.5</p> <p>(2) 週当りの授業外学習時間校内平均(時間)、昨年度を上回る。</p> <p>&lt;1年&gt; グローバル科：5.7/普通科：6.6 学年平均 6.4 &lt;2年&gt; グローバル科：文系 5.4/理系 10.5 普通科：文系 7.7/理系 8.0 学年平均 7.9</p> <p>(6) ①教員のICT活用率70%以上を維持する。 [80%] ②授業アンケート(2回め)の「授業展開」3.3以上を維持する [3.48] ③全教員の授業アンケート総評の平均 3.2以上を維持する [3.41]</p>	<p>(1) (3) (4) (5) ・教育産業模試(11月実施)偏差値平均 グローバル科 1年：国 50.7/数 51.1/英 52.2 2年：国 52.8/数 48.0/英 49.3 普通科 1年：国 47.2/数 47.9/英 46.1 2年：国 45.9/数 45.9/英 44.0 (△) 偏差値平均が評価指標から下がった要因として考えられること： ・評価指標設定時に利用していた教育産業の模試を、難易度のより高い別の教育産業の模試に変更したこと ・感染症の感染拡大により、体育祭、文化祭等を生徒が落ち着いて学習できる環境の中で実施できなかったこと</p> <p>(2) 家庭学習の内容とその指導を改善した結果、昨年度に比べ、1・2年生とも学習時間が大幅に上昇した。 &lt;1年&gt; グローバル科：9.4/普通科：8.8 学年平均 8.9 (◎) &lt;2年&gt; グローバル科：文系 12.4/理系 8.8 普通科：文系 10.9/理系 10.7 学年平均 10.8 (◎)</p> <p>(6) ① ICT活用率 34% (△) これまでの「プロジェクター等の活用」に関する質問を、今年度は「生徒1人1台端末の活用」に関する質問に変更したため、前年度の80%から大きく下がった。端末の活用方法についてさらに検討し活用する教員を増やしていきたい。</p> <p>② 授業展開 3.46 (○) ③ 総評平均 3.37 (○)</p>
2 思考力、判断力及び表現力を育成し、多様性を受入れる態度を醸成する	<p>(1) ①論理的及び批判的思考力を育成する ②論理的な文章を書いたり発表したりする表現力を育成する</p> <p>(2) 主体的に学び、積極的に意見を述べる態度を育成する</p> <p>(3) 多様性を享受し、他国の人々と協働する態度を育成する</p>	<p>(1) ①探究に関する授業やホームルーム等を通して、論理的及び批判的思考力や表現力を育成する。 ②論理的な組立てによる小論文作成力を向上させるとともに、プレゼンテーション力を養う。</p> <p>(2) 外部講師を招聘した講演会や討論会を実施する。</p> <p>(3) ①地域の学校支援 NPO と連携した海外語学研修のみならず、他国の人々と協働する修学旅行等を実施する。 ②国内外での研修やオンライン交流等を通してグローバルマインドを涵養する。</p>	<p>(1) ①② 授業「IM」に対する生徒による授業評価 3.2ポイント以上を維持する [1年 3.42, 2年 3.68]</p> <p>(2) 実施後アンケートで肯定的な回答 90%以上を維持する [94.5%]</p> <p>(3) ①実施後アンケートで肯定的な回答 90%以上を維持する [修学旅行 99%] ②海外研修等への参加者数 40 名以上(修学旅行を除く)を維持する。 [101名]</p>	<p>(1) ①② 探求授業「IM」の生徒による授業評価は、1年 3.39、2年 3.44 であった。 (○)</p> <p>(2) 大学教授による進路講演 2 回、人権教育講演 2 回、国際理解講演 1 回を実施し、平均の肯定的な回答 92.7%であった。 (○)</p> <p>(3) ① 修学旅行に対する肯定的な回答は 99%であった。 (○) ② 英語スピーキング講座、オーストラリア語学研修に各 24 名の計 48 名が参加した。 (◎)</p>

府立和泉高等学校

<p>3 得意技を身に付けさせる</p>	<p>(1) 英語 4 技能 5 領域をバランスよく指導するとともに、特に「話す」「書く」力を向上させる</p> <p>(2) 英語以外の教科や課外活動等で知識や技能を向上させる</p> <p>(3) 高大連携を推進し、より高度な学習及び研究への意欲を醸成する</p>	<p>(1) ①グローバル科の英語力を CEFR (*) B1-B2 に引き上げる。 (*外国語の学習、教授、評価のためのヨーロッパ共通参照枠) ②NET を活用し、昼休み等の英会話講座やイングリッシュ・キャンプ等を通して、普通科・グローバル科の「話す」「聞く」力を向上させる。 ③普通科・グローバル科に英語資格(外部検定)の受験を奨励する</p> <p>(2) 英語以外の教科の学習発表や課外活動等のコンテスト等への参加を奨励する。</p> <p>(3) 大学の講義を受講させたり共同研究などを行ったりする。</p>	<p>(1) ①GTEC for STUDENTS+Speaking 1年：960 点以上 10 名/832 点以上 40 名 704 点以上 60 名/640 点以上 80 名 2年：1088 点以上 5 名/960 点以上 20 名 832 点以上 60 名/704 点以上 80 名 (1年 Basic 1080 満点、2年 Advanced 1280 点満点) 1年：960 点以上 9 名/832 点以上 38 名 704 点以上 65 名/640 点以上 80 名 2年：1088 点以上 5 名/960 点以上 22 名 832 点以上 67 名/704 点以上 80 名 (1年 1080 点満点、2年 1280 点満点) ②最終受講者数 30 名以上 [37 名] ③英検 2 級レベル以上 40 名以上 [35 名]</p> <p>(2) 課外活動等における府大会等レベルでの入賞数 3 件以上 [5 件]</p> <p>(3) 実施予定の大学交流等 3 件以上 [1 件]</p>	<p>(1) ① 1 年生は basic、2 年生はグローバル科(G)が advanced、普通科(S)が basic を受験した。総合的に見て、設定した英語力に達している。 GTEC for STUDENTS+Speaking 1年：960 点以上 1 名/832 点以上 54 名 704 点以上 162 名/640 点以上 74 名 2年 G:1088 点以上 1 名/960 点以上 8 名 832 点以上 35 名/704 点以上 27 名 2年 S:960 点以上 6 名/832 点以上 40 名 704 点以上 116 名/640 点以上 46 名 (○)</p> <p>② イングリッシュ・キャンプに 30 名参加した。 (○)</p> <p>③ 英検 2 級レベル以上は 35 名となった。英検取得者以外、授業等で観察される生徒の英語運用能力も含めて判断した。 (○)</p> <p>(2) 入賞数 5 件 ・ダンス部 全国大会出場 ・吹奏楽部 府大会銅 ・人権作文コンクール 府優秀賞 ・篆刻 全国学生展(高校)最優秀賞 ・OSAKA 未来プレゼン大賞 高校生以下部門 学生奨励賞 (◎)</p> <p>(3) 国内、海外の大学各 1 件であった。 (○)</p>
<p>4 進路指導を強化する</p>	<p>(1) 進路行事を積極的に展開し、進路実現に対する動機付けを行う</p> <p>(2) 学習到達度を定期的に測定しながら、自己実現に向けた具体的・計画的な進路指導を行う</p> <p>(3) 大学入試等の情報や教育産業の進路情報を活用し、進路選択を支援する</p>	<p>(1) ①生徒・保護者対象の教育産業等による進路説明会を実施する。 ②大学等に在籍する卒業生や社会人を招聘し、大学での学びや自身の将来の職業等について考えさせる機会を通して、生徒の進路実現に対する動機づけを行う。</p> <p>(2) 教育産業による模擬試験の結果を個人面談や保護者懇談にフィードバックし、生徒の学習計画に役立てさせる。特に、二年次後半に理数系科目の学習継続を諦めさせないよう指導する。</p> <p>(3) ①入学時より大学ごとの偏差値等の情報を提供する。 ②1 年次から大学のオープンキャンパス等へ参加させる。</p>	<p>(1) ・2022 年度大学共通テストの結果 偏差値平均 52 以上の科目を 10 科目以上 (10 人未満の科目は除く) [共通テスト 17 科目中、偏差値 52 以上 5 科目] ・2022 年度入試における大学現役合格数 【京阪神大、早慶上理大等】 計 3 以上 京大・阪大・神大 早稲田・慶応・上智・東京理科大学 [ 3 ] 【他の国公立大】 計 60 以上 大阪公立・京工繊・大教・奈教・和大等 [ 59 ] 【関関同立、GMARCH 等】 計 180 以上 関西・関学・同志社・立命館大 明治・青山・立教・中央・法政・学習院大等 [ 294 ] 【産近甲龍等】 計 250 以上 京都産業・近畿・甲南・龍谷大 [ 418 ] 【海外の大学】 計 2 以上 [ 2 ]</p> <p>(2) 学校教育自己診断(進路についての面談や相談が十分に行われている)の生徒・保護者の肯定的回答 80%以上を維持する [生徒 92%、保護者 82%]</p> <p>(3) ①進路説明会 各学年 1 回以上、保護者 1 回以上 [1 年 2 回、2 年 2 回、3 年 2 回、保護者 1 回] ②大学生等の招聘 1 回以上 [未実施]</p>	<p>(1) (2) (3) ・2023 年度共通テスト 17 科目中 11 科目において、本校の偏差値は 52 以上であった。また、5-7 文系・理系とも偏差値 53 前後であった。 ・引き続き、資料や図表等を読み解いて考える力や複数の文章や資料について深く考察する力をつけられるよう授業改善を推進したい。 (○)</p> <p>・大学現役合格者数 (○) 【京阪神大、早慶上理大等】 [ 1 ] 京大・阪大・神大 早稲田・慶応・上智・東京理科大学 【他の国公立大】 [ 56 ] 大阪公立・京工繊・大教・奈教・和大等 【関関同立、GMARCH 等】 [ 187 ] 関西・関学・同志社・立命館大 明治・青山・立教・中央・法政・学習院大等 【産近甲龍等】 [ 289 ] 京都産業・近畿・甲南・龍谷大 【海外の大学】 [ 4 ] 米国、カナダ、ニュージーランド、台湾</p> <p>・学校教育自己診断は、生徒 89%、保護者 84%が肯定的回答であった。引き続き、高い肯定的回答率を維持していきたい。 (○)</p> <p>・①進路説明会は、各学年の生徒向けに 2 回、保護者向けにも 2 回を実施した。 (○) ② 大学生の招聘は 1 回実施した。 (○)</p>

## 府立和泉高等学校

5 修学が困難な生徒を支援する	<p>(1) 支援チームを必要に応じて組織する</p> <p>(2) きめ細やかな教育相談体制を維持する</p>	<p>(1) ①外部機関（医師、府教育庁及びカウンセラー等）、管理職、担任及び校内の教育相談担当者からなる支援チームを組織し支援にあたる。 ②海外からの留学生に対して、地元関係団体と連携して日本語教室等を開講する。</p> <p>(2) ①スクールカウンセラーによる生徒及び保護者への教育相談を実施する。 ②相談室を日常的に開放する。 ③就学対策委員会を学期毎に開催し、支援が必要な生徒について情報共有するとともに、必要に応じて合理的な配慮を講じる。</p>	<p>(1)(2) 学校教育自己診断（生徒の相談に丁寧に応じている）の生徒の肯定的回答80%以上を維持する [肯定的回答92%]</p>	<p>(1)(2) 肯定的回答90%であった。今後とも、高い肯定的回答率を維持していきたい。  (○)</p>
6 校務整理と人材育成を図り、教育効果の高い学校運営を行う	<p>(1) 各学年・分掌が人権教育推進の観点を踏まえ、企画・実行する</p> <p>(2) 経験年数の少ない教員を登用し、ミドルリーダーに育成する</p> <p>(3) 学校運営協議会の提言を踏まえ、学校運営の改善を進める</p> <p>(4) 教員の時間外在校時間を削減する</p>	<p>(1) 全ての教育活動において、いじめ防止等の人権教育推進の観点を踏まえ、効果的かつ迅速な学校運営を行う。</p> <p>(2) 分掌長等に経験年数の少ない教員を登用し、新しい発想や提案を取り入れ、校内組織の活性化を図る。さらに管理職・首席・指導教諭らによる経験年数の少ない教員リーダーへの指導助言を推進し組織マネジメント力を育成する。</p> <p>(3) 年3回（6月・8月・1月）実施し、いただいた学校運営に関する意見、提言等を教職員と共有し、学校運営に取り入れる。</p> <p>(4) ①「府立学校における働き方改革にかかる取り組みについて」に沿って業務の見直し・効率化を図る。 ②ノークラブデー及び一斉退庁日を確実に実施する。</p>	<p>(1) 各部署で提案された企画の実施数2項目以上を維持する [ICT研修、観点別評価研修、人権研修を実施]</p> <p>(2) 分掌長等に経験年数の少ない教員を3人以上登用する [分掌長等10人中5人が初任者配置教員]</p> <p>(3) 学校運営協議会から出された提言項目をできる限り学校運営に取り入れる [提言8項目のうち6項目を取り入れた]</p> <p>(4) ①時間外勤務100時間以上/月の教職員をなくす [新規] ②ノークラブデーの確実な実施。 [各クラブとも実施できた]</p>	<p>(1) 教職員研修を3回実施した。 ・服務に関する研修 ・人権教育推進に関する研修2回  (○)</p> <p>(2) 今年度、分掌長等に経験年数の少ない教員[初任者配置教員]を4名登用し、学校全体の活性化を図った。  (○)</p> <p>(3) 頂戴した提言11項目のうち6項目を取り入れ、残り5項目も検討中。  (○)</p> <p>(4) ①時間外勤務100時間以上/月の教職員をなくすことができなかった。  (△) ②完全には実施できなかった。  (△)</p>
7 学校を広く発信する	<p>(1) 学校紹介資料・媒体を充実させる</p> <p>(2) ①オープンキャンパスの内容を充実させる ②学校説明会を工夫する</p>	<p>(1) 学校パンフレットを活用するとともに、学校ウェブサイトを更新し、本校の教育活動を地域に発信する。</p> <p>(2) ①生徒の活躍する様子を見てもらえるよう、オープンキャンパスの内容を改善する。 ②校外における学校説明会や中学校訪問時の説明資料や提示方法を工夫し改善を行う。</p>	<p>(1) 学校パンフレットの配付部数4500部以上を維持する [4500部（学校説明会は1日4部制で開催）]</p> <p>(2) 中学生進路希望調査における本校志願倍率1.3倍以上を維持する [第2回希望調査1.38倍]</p>	<p>(1) 学校パンフレットの配付部数4900部を配布した。また、学校説明会に中学生約500名、保護者約400名が参加した。  (○)</p> <p>(2) 第2回進路希望調査の本校志願倍率は1.42倍であった。コロナ禍の影響が減少つつあるなか、今後は直接的な交流・留学実施状況を感染症拡大前の水準まで回復させ、学校全体でグローバル科設置校としての特色をさらに出していく必要がある。  (○)</p>